

広島大学での学びなおし

宮地 幹治
(広島化成株式会社)
代表取締役社長



はじめに

「大学時代に次女と長男が生まれ、併せて家を新築した」と言うと少々訝しがられるかもしれない。しかし話は簡単で、6年前の39歳で社会人学生となったからだ。

私が社長を務める広島化成株式会社(広島県福山市)は1947年に祖父が創業し、現在はシューズ・自動車部品等のゴム製品・防水シートや床材などの化成品を主軸とした製造業の会社です。

社業を通じ私の人生目標は「創業100周年を盛大に祝う」と、弊社の経営理念「常に顧客に愛される製品を生産し、企業の健全と従業員の福祉を図り、職域を通じ社会奉仕すること」の実践にある。

学生となったきっかけは妻の言葉であった。当時、この創業100周年に向けて自分自身の役割は何であろうかと考えていた。そして経営者としての資質・能力を高める為には、「学び」が必要不可欠であると実感していた。その折に妻から「じゃあ、大学に行ってみたら?」と、自分では思いもよらない助言に後押しを受けた流れである。

広島大学を選んだ理由

大学といっても様々な選択肢がある中で、私は広島大学経済学部の夜間主コースを選んだ。選択理由は大きく3つある。

- ① 時間的に学業と社業の両立が可能(講義は平日18時~21時)
- ② 幅広い教養課程と経済・経営中心の専門課程からなる、質の高い学習プログラム
- ③ センター試験を受けなくても良い社会人入試があり、凡才の私でも合格が目指せた

広島大学の社会人入試は経済学部と法学部で、共に夜間主である。卒業迄に必要な単位数は昼間主も夜間主も124と変わらない。また夜間主には学費が昼間の半額で済むという経済的メリットも存在する。尤も私の場合は学費以上に新幹線通学代が高かったのであるが。

大学の思い出

大学は面白い講義もあれば退屈な講義もあった。成績は秀もあれば落単もあった。心に刻まれた講義もあれば、既に忘れてしまった講義もある。個性豊かな先生方に鍛えられ、全てを通じて大変勉強になった。結果的に私には上出来のGPAを取り、4年で無事卒業できた。

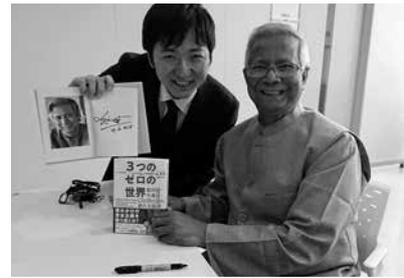
思い出深い講義の一例を挙げると、ミクロ経済の限界効用逓減の法則、統計学の標準偏差と回帰分析、平和学のモニュメント見学レポート、中国語のピンイン、心理学の動画、食文化論の発酵と腐敗の違い・カレーの作り方レポート、経営組織論の難解な英訳、経済事情論のデータオリエンテッドな環境問題、情報データ科学演習のpythonとJupyter、原価計算論、哲学、倫理学……。挙げればきりが無い。

その中で特に思い出深かったものを敢えて言えば、ユヌス博士の講演(後の事件)、3年時の演習ゼミ、そして4年時のコロナである。

ノーベル平和賞受賞者 ムハマド・ユヌス博士の講演

2018年3月。ムハマド・ユヌス博士による公開講演会が大学で行われた。私も滅多にない機

会と喜び勇んで出席し、新刊著書へのサインと写真撮影を見事にいただいた。大変良い思い出である。しかし事件はその後発生。私は予習を兼ねてユヌス博士の著書を大学図書館で借りていた。そして良かれと思い、あろうことか借りた本にもサインをいただいた。この返却時に司書の方から大目玉を食らった。さらに「紛失や破損は弁償という規定があるので、弁償して買い取ります」と申し出たら、「そういう問題ではない!」とさらに怒られた。そのサイン本は今もおそらく東千田キャンパスの図書館に眠っていると思われる。思い返しても軽率な行動であったと反省する次第である。



3年時 演習ゼミ

様々な先生との出会いの中、恩師と言える方はゼミ担当となっていた安武先生である。当ゼミ最大の特徴は先生の方針で「Active Learning や Collaborative Learningなどの要素により、責任ある自主的なゼミ運営」にて学生主体で進行されることに尽きる。その結果、恐らく他のゼミと圧倒的に異なったのが、ゼミに費やす熱意・情熱・時間・自己資金と、個人の成長にある。

具体的に私達のチームは、「外部の学生コンテストに向けて海外未経験者に計画を立てさせ、パスポート取得し、ASEAN4か国周遊し、レポート提出」を行った。結果的にコンテスト入賞は叶わなかったが、大いに自由にやらせていただいた。また同ゼミの他チームも同様に海外へと飛び立った。旅は人を強くする。私を含め、彼らはゼミを通じて一生忘れられない経験を得られたと思う。

4年時 コロナ

最後の4年時、ついにコロナがやってきた。春からあの緊急事態宣言である。日本全体が大混乱となる中、大学も当然例外ではない。大学側も手探りの中、結果的に私は残りの全単位を前期にオンライン講義で取得。卒業式もオンライン出席とし、4年時は1日も現地出席することなく卒業となった。ただ個人的には新幹線通学が無く寧ろ時間的には楽になる、複雑な最終年であった。

日本の将来に向けて

先日、商談でインドを初訪問した。10代で「深夜特急」を読んで以来、憧れのインド。そこには混沌と併せ、経済成長への強い勢いがあった。次の中国となる可能性を大いに感じた。

反面で日本は少子高齢化。急激な経済成長は難しいと言わざるを得ない。この現状打破を考える上で、個人的にはもっと社会人学生が増えれば良いのと思う。新たな産学連携の形で、企業が大学での学び直しを容易に活用できる制度や、企業のニーズにより応え得る大学のプログラム立案があっても良いのではないだろうか。国勢調査ⁱによれば、日本の15歳以上で大学・大学院卒業者総数は約2200万人。近年の大学進学率が5割超の中、卒業者は意外にも少ない。社会人学生の増加は幾分かでも、大学定員割れの補充にも繋がるだろう。

太宰治は「勉強というものは、いいものだ。」ⁱⁱから始まる名文を残している。人生100年時代、日本全体がその方向へ進めば、新たな国力増加の道が開かれるように思う。

終わりに

冒頭の通り2年の4月に次女誕生、4年の卒業直前に長男が誕生した。時間が全く足りず、学業は正直かなりきつかった。しかし雪に耐えて梅花麗し。学びの機会をいただいた広島大学に大いに感謝いたします。併せて社内の仲間達には、昔も今もずっと助け続けてられている。皆のおかげで会社がある。大いに感謝いたします。実は妻にはさらに新幹線通学時に食べるお弁当を毎日作ってもらった。育児で本当に大変な中、妻には感謝しかありません。

今年の弊社の経営スローガンは「変化に打ち勝つ新たな革命」。これからも学びを続け、創業100周年に向けて皆と共に頑張ってまいります。

i 令和2年国勢調査 https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?stat_infid=000032201217

ii 太宰治『正義と微笑』 https://www.aozora.gr.jp/cards/000035/files/1577_8581.html